

「米ありません」苦渋の一時閉店 老舗米穀店主が見た流通の崩壊

毎日新聞 2025/6/14 07:00



コメ価格が高止まりする中、随意契約による政府備蓄米が各地の店頭に並び始めた。ただ、コメ全体の値下げや安定供給につながるかは見通せていない。「令和の米騒動」の直撃を受け、今年 3 月、老舗米穀店をやむなく閉じた**京都府舞鶴市の松本泰社長（52）**がコメ流通のかつてない異変を語った。【聞き手・塩田敏夫】

京都府**舞鶴市**で祖父の代から 90 年続いた「まつもと米穀」を 3 月に閉店した。独自の精米工場を持ち、店頭販売のほか、病院や福祉施設などにも売ってきたが、肝心のコメが手に入らなくなった。断腸の思いだったが、従業員 15 人のうち、販売に関わる 5 人を解雇し、店の正面に「米屋ですが 米ありません 良質な米が安定供給できるまで店を閉めます ごめんなさい」と張り紙を出した。

昨年夏から需給逼迫

私は祖父、父に次ぐ 3 代目の社長で、近年は農家から 250 トン、卸売業者から 50 トンを仕入れ、**年間 300 トン**を取り扱ってきた。しかし、**2024 年 3 月ごろから卸売業者、小売業者がコメを融通し合う需給調整が**

停滞するようになった。**コメの絶対量が不足**し、24 年夏ごろからは卸売業者からコメが回ってこなくなり、急激に需給は逼迫（ひっぱく）した。

これまで大きな価格決定権を持っていた大手スーパーの存在感が薄れ、これまで取引のなかったバイヤーに農家が直接コメを売るケースが急増した。24 年産は値段が上がりすぎたため、通常のルートでは買わない業者が増え、従来の流通の秩序も崩れてしまった。

農政の長期的視点欠いたツケ

今回の騒動で痛感したのは、**日本の農業の構造から問題が起きている**ということだ。長年、農村を回ってきたが、**農家の高齢化**が著しく、**後継者不足**も深刻化する一方だ。**生産基盤そのものが年々衰退**していると肌で感じてきた。**「コメは安くて当たり前」の時代が長く続き、農家のやる気をそい**できた。

今回、一転して価格が急激に上がり、無秩序なコメの確保競争が起き、多くの国民が困る状況が続いている。**国が長期的視点に立たず、最も重要である、農家の生産環境の整備を怠ってきたツケ**が一気に回った結果だと思う。

小泉進次郎農相は備蓄米放出の方法を変え、5 キロ当たり 2000 円程度のコメが並ぶ店もある。新聞、テレビもこの話題でもちきりで、「コメの値段を下げた」という“手柄”で夏の参院選に突入しようとしているのだろう。

大手小売りとの格差懸念

コメが手に入らなくなり、がらんとした「まつもと米穀」の精米所＝京都府舞鶴市引土で 2025 年 2 月（松本泰さん提供）

しかし、冷静に考えてほしい。**随意契約で備蓄米をいち早く手にしたのは大手スーパーなどで、地方の中小規模の小売業者との格差はますます広がる**のではないかと。何よりも農家が不安を強めると思う。頑張っ

積を増やそうとしても、**暴落の危険性**があり、**意欲をそぐ**ことになりかねない。今こそ目先のことなく、**農家が将来にわたって安心してコメを作れる環境を整えるビジョンを策定すべき**だ。それが食料安全保障につながる。

私は **5 月中旬**、新たにコメを買い入れるため**青森、岩手**両県を回った。閉店がメディアで報じられ、全国から励ましの声が寄せられた。今回商談で訪れた**東北の農家もそうした人たち**だった。

京都府北部の新米が出回り始める 8 月の盆明けには店を再開したい。**農家、卸売業者との信頼関係を深め、良質のコメを消費者に届け、喜んでもらう米屋としての矜持（きょうじ）を何よりも大切にしていきたい。**

まつもと・やすし

1973 年生まれ。同志社大を卒業し、リクルート社などを経て 2005 年、祖父の代から続く「まつもと米穀」の 3 代目社長に就任。舞鶴青年会議所理事長も歴任。

<https://youtu.be/66bpJI34b-0?si=qsDdosncApCHYGrC>